

⑨ 消 防 費

88,041,283 円

# 消 防 費

## ○ 消 防 費

88,041,283円

常備消防については、昭和44年4月1日に発足した福生地区消防組合に65,822,944円（負担率46.36%）を負担し、常備消防の強化につとめた。

非常備消防については、消防施設事業及び消防施設の維持管理の向上につとめるとともに、消防法に基づく水利標示板等を設置するとともに、消防施設の拡充につとめた。

### 1. 常備消防

#### (1) 消防組合の現況

福生町消防本部（昭和43年7月1日設立）は、職員10人をもって、火災予防行政を実施しながら、消防署設立の準備を進めていたが、昭和44年3月15日、羽村町、瑞穂町を組織町とする福生地区消防組合が設立され、昭和44年4月1日をもって組合消防本部を発足、職員20人、消防自動車1台をもって、消防行政並びに消防活動を実施した。

さらに、昭和46年度においては、標準型ポンプ自動車1台、化学消防自動車1台を購入するとともに、瑞穂町箱根ヶ崎2,353番地に瑞穂出張所（敷地面積660.25㎡、耐火造建築面積170.55㎡、延面積292.35㎡）を新築し、職員12人、新型ポンプ車1台を配置し瑞穂地区消防体制の充実強化をはかった。

また、化学消防自動車を本署に配置し、現在1本部（署）、1出張所、職員75人、消防ポンプ車4台、化学消防自動車1台、救急車1台、査察広報車1台、指揮車1台計8台の陣容をもって消防行政並びに消防活動を実施している。

### 2. 非常備消防

非常備消防として、5ヶ分団、211人、消防ポンプ自動車5台からなる福生市消防団の組織があり、消防行政並びに消防活動を実施している。

#### (1) 年令別消防団員数

(46.4.1)

団 員 数	18 ～20	21 ～25	26 ～30	31 ～35	36 ～40	41 ～45	平均年令
211人	1	43	83	50	30	4	29.7才

## (2) 消防団水火災出動状況

水火災発生件数	出動件数	延出動団員数	1件平均出動 団員数	団員1人平均 出動回数
101件	35件	2,661人	76人	13回

(他市町応援出動含む)

## (3) 団員損害補償

被補償者数	療養補償	休業補償	補償額合計
2人	12,950円	2,698円	15,648円

## (4) 消防施設の整備

## ア. 防火水そう

## 防火水そう新設場所

設置場所	規格	所属分団
福生市福生1,106番地	40m <sup>3</sup> 級有蓋空地用	第4分団
" 1,360 "	"	第5分団
福生市武蔵野台2丁目9番地	"	第4分団

## イ. 水利標示板

水利標示板30枚購入し、新たに設置するとともに、不明確になった水利標示板と交換した。

消火栓		防火水槽			その他
150mm 以下	150mm 以上	20m <sup>3</sup> 未満	20m <sup>3</sup> ~ 40m <sup>3</sup> 未満	40m <sup>3</sup> 以上	プール
217	73	62	8	49	11

ウ. ホース

ホースの配置

区 分	第1分団	第2分団	第3分団	第4分団	第5分団	計
数量(本)	68	51	54	61	52	286本

本年度、50本のホースを購入し、各分団へ各10本配付した。

エ. 詰 所

分団名	所 在 地	構 造	面積 (m <sup>2</sup> )	団員数	消 防 自動車
第1分団	福生市熊川 198番地	木造モルタル 平 家	54216	40名	1 台
第2分団	" 607 "	" 2階建	66.248	40	1
第3分団	" 志茂 232 "	木造 2階建	59.502	40	1
第4分団	" 福生1,106 "	木造モルタル 2階建	67.07	40	1
第5分団	" 1,162 "	木造 平 家	29.75	40	1

オ. 消火栓新設場所

新 設 場 所	種 類
都市計画街路2.2.1号線	地下式 双口 1基
市道168号線	" " "
" 195 "	" " "
" 359 "	" " "
主要都道29号線立川、青梅線	" " "
都市計画街路2.2.19号線	" " "
区画街路62号線	" 単口 "
計	7 基

## (5) その他の渉外関係

協定市町名	協定範囲区分	締結の形式	協定の目的
立川市、昭島市、羽村町 瑞穂町	相互の応援	口頭	火災 風水害
米空軍横田基地	米空軍横田基地との 相互応援協定	文書	火災
東京都 (東京消防庁)	東京都(東京消防庁) との相互応援協定	〃	火災 集団災害等

## 昭和46年度救急車の事故別出動状況

(46.4.1~47.3.31)

事故種別 月別	火災	風水害	水難	交通	労災	運動競技	一般負傷	犯罪	自損	急病	その他	計
4	4			41			11	3		31	2	92
5	1			39	8		17	3	4	36	5	113
6				40	2	1	12	1	2	49	6	113
7			1	44	4	1	9	3	1	57	6	126
8				43	1		8	3	1	42	3	101
9	1			36	5		8		2	24	8	84
10	2			42	3		10	2	3	30	2	94
11	2			50	4		9	2	2	38	2	109
12	3			37	4		13	5		35	5	102
1	2			36	1		13	4	2	32	4	94
2	2			28	3		7	2	1	51	3	97
3	1			37	6		7	3	2	51	2	109
計	18		1	473	41	2	124	31	20	476	48	1,234

昭和46年度月別火災発生件数

(4 6. 4. 1 ~ 4 7. 3. 3 1)

区 月分 別	建 物				車 両	そ の 他	計	焼損面積 ( $m^2$ )	損 害 額 (千円)
	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や					
4	3			2		(1) 7	13	296	13,100
5				2		1	3		110
6						3	3		
7				3	1	4	8		4
8				1	2	(1) 1	5		851
9	1			1			2	49	2,384
10	1			1		3	5	129	7,517
11	1			4	2	4	11	83	4,893
12	1		1	1		7	10	51	1,641
1	1			4		7	12	13	105
2			2	4		8	14	12	1,068
3						15	15		
計	8		3	23	5	(2) 60	101	633	31,673

( ) 内は林野

原因別火災発生件数

(4 6. 4. 1 ~ 4 7. 3. 3 1)

原因	石油ストーブ コンロ	マッチ	タバコ	風呂釜	ガスコンロ	エンジン 加熱	花火
件数	5	19	22	13	3	2	3

たき火	その他	計
13	21	101